

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第3回たかまつ男女共同参画プラン策定懇談会
開催日時	平成22年11月12日(金) 15時00分～17時10分
開催場所	男女共同参画センター5階第8会議室
議 題	(1)たかまつ男女共同参画プラン（改訂版）の進捗状況について (2)市民生活意識調査・事業所実態調査・市民団体等実態調査の実施結果について (3)分科会について (4)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	時岡会長，蓮井副会長，松井委員，吉岡委員，石井委員，渡邊委員，三木委員，野田委員，津川委員，神納委員
傍聴者	1人（定員10人）
担当課および連絡先	企画課男女共同参画推進室（839-2275）

会議経過および会議結果

会議を開会し，次の議題について協議し，下記の結果となった。

- (1) たかまつ男女共同参画プラン（改訂版）の進捗状況について
事務局より説明
- (2) 市民生活意識調査・事業所実態調査・市民団体等実態調査の実施結果について
事務局より説明
- (3) 分科会について
事務局より説明
- (4) その他
次回の懇談会，分科会の開催日程等について事務局より説明

（会長）

事務局からたかまつ男女共同参画プラン（改訂版）の平成21年度における進捗状況について説明がありましたが，委員さんから何か御質問あるいは御意見等がありましたら，聞いていきたいと思う。

（会長）

資料1の3ページ「男女共同参画の推進に関する具体的施策・事業の実施状況」の主要プラン3番目の「政策・方針決定への女性の参画拡大」では，達成度評価「2」が1つ，「3」が10もあるが，前年度と比べ予算が減っている。

この3番の項目は，予算を多くつけたからと言って取組が進展するというものではないと思うが，特に8番の「男女が対等なパートナー

会議経過および会議結果

として働く職場づくり」と12番の「女性に対するあらゆる暴力の根絶」は、予算がないといろんなことができないと思う、また、新たに予算がついたので新しいことができるという側面はあると思うので、そう考えると、取組の進捗状況が遅れているのに、どうして前年度と比べ予算額が減っているのか。

全体として予算規模が縮小しているのでしょうかから、是非、次年度の予算に向けて、関係部局に、施策を達成するために必要な予算はきちんと計上して予算を取るよう働きかけをしていただきたいと思います。

(事務局)

今回対象となった484事業の中には、まちづくり戦略計画で重点的に取り組む事業として掲げているものもある。そういった重点取組事業の予算はある程度確保されているが、それ以外の平常的な事業については、厳しい財政状況の中で、それぞれの事業課と財政課の調整の中で、予算を増やしていくものもあり、個々の事業について見ると予算が減っている事業もある。また、先ほど会長も話されましたが、予算をかければかけるだけ成果がでるものでもないものも含まれている。

事務局としては、こういう状況で内部評価の達成度評価が十分でないということであれば、事業課において事業費を確保した上で取り組んでいただきたいと思います。また、事業の進捗状況からみてどういったものが効果的なのか(費用対効果)を、さらに精査した上で検討したい。

(会長)

ほかの事業の推進によって、これが実現しているというのも、たくさんあると思うので是非、御検討ください。

(事務局)

御指摘のとおり、達成度評価が「2」の施策については、事務局の方から各事業課のほうへ計画期間内に改善できるよう働きかけていきたい。

もう一つは、経常経費の予算額について、ご指摘いただいた3点は、予算ベースでみますと、21年度の決算額を下回っていないということなので、その現実にできる事業に対して、22年度の予算が不足するような予算のつけられかたであったかということ、そうではないということだけは御理解ください。

(委員)

資料1の7ページ「セクシュアル・ハラスメント等防止の取組を行う事業所」の21年度実績値と達成状況は掲載されていないのか。

(事務局)

21年度の実績値としては、とれていない。

(委員)

男女共同参画センターでは、セクハラに関する研修会や相談などを行っている。なぜ、その数字があるのに使わないのか。目標値50.0%とあるが実際はどの程度なのか。また、20年度の数値は分かるのか。

(事務局)

その数値データは、たかまつ男女共同参画プラン策定時に調査(前回調査は平成18年度)して掲載しているものなので、平成19年度、20年度の数値データは持っていません。

会議経過および会議結果

(会長)

ということは、来年度の資料に掲載されるのですね。また、プランを策定する前には分からないといけないと思うがどうか。

(事務局)

前回(18年度)の事業所実態調査では、相談窓口設置は、27.3%あったが、22年度の同調査では、10.8%となっている。

これは、調査のベースが異なるため、その時によって割合(%)が変わってくるので、それも踏まえて、次の目標値の設定をどうするのか、また、このような掲載の仕方をしていくのかも含めて検討したい。

(委員)

まとめ方についての感想だが、資料の2番「たかまつ男女共同参画プランで設定した目標値の達成状況」は、評価指標に基づいて、実績値、目標値が掲載されており分かりやすい。

資料の1番「男女共同参画の推進に関する具体的施策・事業の実施状況」のまとめ方をみると、達成度評価の評価の方法や評価基準というのが曖昧だと思う。また、達成度評価が絶対的なもののような数字として掲載され、前年度予算額と今年度予算額が対照的に出されているので、あたかも決算額が予算額に対してどうだったのか、さらに前年度予算額と比べてどうなのか、ついそこに目がいってしまう。この分け方をされてしまうとそうなる。

個人的には、2番のまとめ方だけで十分ではないかと思う。あるいは、2番のまとめ方に基づいての予算の変動等を、それぞれの項目に予算額と決算額が明示できるのであれば、明示することによって達成状況が把握できやすいのであれば、予算額等を2番のまとめ方の中で、示せば十分でないかと思う。そういう意味では、1番のまとめ方は、何か誤解というか評価の基準がまるでお金の額の検討と達成度評価が絶対的な数字として出てくるので、1番のまとめ方は曖昧な見解を発生しやすいのではないかと思う。

(会長)

達成度評価の1～5は、自己評価なのでこのような形になってしまうけれども、確かに、絶対的なものとして捉えて見てしまう。

2番のまとめ方に、例えば、達成度評価であったり予算等の項目をつけていただくなど、見せ方の工夫を考えて欲しい。もし、それがうまくいけば、次のプランの根拠の説明として使えるのではないかと思う。

(事務局)

御指摘を踏まえて、見直しを検討する。

(委員)

こういう評価の仕方、自己評価と他者評価は、行政の中で流行っている、こういうシステムでやっていることが、本当に市民の視点から見て、有効なお金の使い方なのか、とか、行政職員の働き方のムダという失礼だが、そこをもう少し、踏み込んでいかないと、そういうところばっかりに仕事の時間と賃金が使われ、市民サイドの実態から、かけ離れ

会議経過および会議結果

た数字が一人歩きして、先ほども言われましたがムダな表をたくさん作ったりとか、評価をすることが、どれだけ社会的な使命を果たす意味を持つのか疑いたくなる。

でも、確かに討議するのに数字が議会でもいるだろうし、こういう委員会でもいるだろうが、もう少し違う視点から考えないといけないと思う。

(事務局)

ありがとうございます。表面に出ている表は、非常にシンプルですが、484事業について事業内容が載った1つ1つの個表がついており、膨大な量である。常に現状の計画に誠実に事業の進捗管理をしていく作業を行っているということでございまして、本当の意味は何なのかということは、次期計画において説明させていきたいと思う。

達成度評価というのは、以前から使っている表現だったので、変えられなかったが、十分であるとか、不十分であるとか、それはむしろ、施策の対応の方向であって言葉じりとは違うものがある、その辺も含めて御容赦いただきたいと思う。

(委員)

分かりました。ありがとうございました。

(会長)

それでは、議事(2)へ移りたいと思うが、まず、市民生活意識調査の結果から説明を事務局からお願いしたい。

(事務局)

市民生活意識調査の結果を説明

(会長)

ありがとうございました。何か気が付いた点はありませんか。

(委員)

なぜ、大津市や奈良市と比較しているのか。同じような組織規模だからなのか。

(事務局)

組織規模も似ている両市が、最近(前年に)、本市と同じような調査を行っていたので、参考までに比較し掲載した。

(委員)

11ページの間3は、結婚されている方(内縁を含む)のみの質問項目なので、無回答に未婚者を含まず集計し、グラフ化するべきだと思う。

(事務局)

御指摘のとおりでございまして、無回答に未婚者を除いて集計すると、グラフの数値も変わってくる。

(委員)

DVは、若い人の中の問題だけではなく、介護の世界でも暴力を振るう問題が増えてきているので、広い意味で考えていく必要があると思う。

会議経過および会議結果

(委員)

人権擁護委員の相談では、そちらが多い。つまり、預金通帳を取り上げるなどの経済的虐待、そういう相談が今、非常に多くなってきている。

(事務局)

次期プランの基礎データとして、調査し分析していくので、今後はDVに限らず、そういったものも踏まえて、次期プランを検討していきたい。

(会長)

それでは、続きまして、事業所実態調査の結果の説明を事務局からお願いしたい。

(事務局)

事業所実態調査の結果を説明

(会長)

前回の調査に比べると、市民生活意識調査と事業所実態調査の回収率がだいぶ下がっているが、前回は社会的にも話題になっていて、意識も高かったのが、それと比べると全体的に下がったのかなと思っていたが、必ずしもそうではなく、市が行っている他の調査に対する回収率と比較すると、まあまあ高いということである。

(委員)

従業員数が10人未満の事業所が半数を超え、また、20ページの間8-2の間では「出産した人はいない」という割合が50%を超えているが、このデータに信憑性はあるのか。

(事務局)

無作為抽出により事業所を抽出したが、その時に事業所の規模までの補正をいれなかったのが、こういう結果になった。一つのデータとしての位置づけと考えている。

(委員)

例えば、その企業のだれが答えたかにもよるが、7ページの間2では、1日の労働時間(残業を含む)について、適当だと思うが66.6%と多くなっているが、零細企業の方だと、本当は、もっとサービス残業が多いのではないかと思うが、どうか。少し疑問に思う。

(事務局)

事業所の人事担当部門の人が答えているのだと思うが、零細企業だと、社長(代表者)・事業主が答えている場合もあり、事業主が持つ印象と実際の従業員が持つ印象の差は当然、あると思う。その回答者の分析まではできていない。

(委員)

それは分っているが、このまま、例えば、ワーク・ライフ・バランスでの考え方とかをそのまま反映させてもいいのか、と思う。

会議経過および会議結果

(事務局)

確かにそういう側面はあると思う。

(会長)

事業所規模別の集計・グラフも中にはあるので、委員さんの方で欲しいデータを示していただき、事務局の方で用意してもらうようお願いしたい。

(事務局)

対応できるものは、対応したいと思う。

(委員)

回収率の件だが、今回は、1500事業所の中で553の事業所から回答(36.9%)があったのだから、ある程度の意識が分るのではないかなと思う。さらに追跡調査の必要があるのかないのか、事務局としては、この回収率の結果をどう考えているのか。

(事務局)

今回の調査については、事業所数でいくと3分の1の方に回答を書いていたが、内容を見ると、確かに、御指摘があったように、この結果がすべてという形ではなく、一つのデータとしてみる。また、グラフ中の事業所規模別の分析もそれぞれ行った中で、現状の事業所は、このような状況であって、こういう意識があると、これを次期プランの策定を考える時に、事業所のニーズだとか状況をどう変えていくのか、具体の施策・事業に反映していくために、ということで考えれば、今回の調査の結果で十分とは言えないが、行っていけると思う。

(会長)

学術的な立場から言わせていただくと、郵送によるアンケート調査方式で2割強と言われているので、それから言うと非常に高いと思う。前回の調査が非常に高かったのだと思う。だから、これを下がっているとか、少ないとか、一部であるとか、そういう見方はしなくていいと思う。データとして十分であると思う。

(委員)

私達は、数字だけで判断するのではなくて、その向こうにある読み取り作業を行う必要があると思う。また、しっかりしないとアンケートの問題が解決しないと思う。

(委員)

ランダムサンプリングされた結果なのだから、事業所の従業員構成が縮小傾向になっているのではないかなと思う。

(会長)

この調査の信頼性に関しては、一般的に意識を網羅してこうやってデータにすることであれば、こういう調査が一番ふさわしいと思う。その前提にたつてこの懇談会でも、このような形で、まず前回と同様の調査を行った。また、前回と同様の調査を行うことによって、どんなふうに変

会議経過および会議結果

わってきているのか、ということを探るといのが、この基礎データを得るという意味で、調査をしたので、それは、そういう目的にかなった結果が得られていると思う。

(会長)

それでは、続きまして、市民団体等実態調査の結果の説明を事務局からお願いしたい。

(事務局)

市民団体等実態調査の結果を説明

(会長)

なぜ、経年変化のグラフが一つもないのか。今、経年変化で把握している項目があれば説明していただきたい。

(事務局)

前回のデータの集計・整理がきちんとできていないので、経年比較することが難しく、今回のデータだけを掲載した。

(委員)

この市民団体等実態調査の回収率は高いですね。

(会長)

何か、ほかにご意見はありませんか。

(委員)

13ページの17番の④は、「コーター制度」となっているが、「クォーター制度」が正しいと思う。

(事務局)

分りました。

(委員)

事業所の回収率が非常に悪かったが、経済が下降線の形だから、そのあたりのことも回答に多少影響があったのではないのでしょうか。

(委員)

そういう部分もあると思う。

(会長)

これらの基礎データを踏まえ、具体的なプラン策定に入っていく。前回もこういうやり方をしたが、分科会を作って、その中で具体的な中身の検討をしていただいて、そこで検討した内容をまた、全体で持ち寄って全体でみていく。そういう作業で、今後進めさせていただきたいと思う。

次の議題(3)分科会について、事務局の方から説明をお願いしたい。

会議経過および会議結果

(事務局)

分科会について説明

(会長)

今、御説明いただきましたが、今後は、3つの分科会に分かれて進めていただくということと、それから、1月ぐらいから月1回程度ご検討いただき、4～5回ぐらいを目安にして、最終的には5月連休明けぐらいに取りまとめていくということですね。

(事務局)

3つの分科会で取りまとめたものを、来年度の5月連休明けぐらいに、再び、この懇談会に持ち寄り、全体的なことも含めて御意見をいただく予定にしている。

これから、素案づくりに向けて作業を進めていきたい。

(会長)

進め方について、何か御意見はありませんか。

(委員)

前回のプランの素案を見てみたいが、どれなのか。例えば、どういう目標に向かって作業を進めるのか。

(事務局)

具体的なことについては、前回のプラン策定に携わった者がいないので分らない。当時の担当者にも聞こうと思っているが、基本的にはその骨格として、現行プランにもあるが、施策の基本的方向および具体的施策・事業、重点取組などを定めていく。そして、各施策・事業の評価指標および目標を何にするのか、などを前回のようにある程度決めていく。目標を定めないと進捗管理が難しいので、そのあたりぐらいまでのことを素案としてまとめていきたい。

(委員)

そういった分科会の資料は、事務局が用意してくれるのか。

(事務局)

事務局の方で、随時、資料を出していき、それを基に議論していただいて形にしていきたい。

(委員)

ワークショップのように、DVのために学校を視察するというような活動を行うというのではなく、プランの素案づくりのための分科会というふうに捉えたらよいか。

(事務局)

はい。

会議経過および会議結果

(会長)

事務局が資料などを用意してくれるが、委員の側からも欲しいデータや資料があれば、また、全国的な動向や国の施策の方向が知りたいということであれば、事務局の方に言ってください。次の分科会までにその資料を事務局で用意していただく、という形で進めていきたいと思う。

また、各分科会には、事務局の職員も出席していただけるので、各分科会全体を通しての矛盾や重複があれば、調整していただきたいと思う。

(委員)

各分科会で関連する項目等があれば、調整していきたい。

(会長)

各分科会のグループ分けについてですが、資料の案のとおりでよろしいでしょうか。特に私は、これがしたいとか、このテーマはだれがふさわしいとか、御意見があったら言ってください。

特にないようなので、それでは前回の時と同様に各グループのリーダー（取りまとめの代表者）を決めたいと思う。

(会長)

最後に、議題（４）その他について、事務局の方から何かありますか。

(事務局)

今回の懇談会、分科会の開催日程等について事務局より説明

(会長)

それでは、本日の懇談会は、これを持ちまして、終了させていただきたと思う。

